

令和 6 年 8 月 9 日

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

滋賀県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
米原市立柏原小学校	米原市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
米原市立柏原小学校	https://kashiwabara-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/1257

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米原市立 柏原小学校	https://kashiwabara-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/1349	https://kashiwabara-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/1349

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

<特記事項>

学校だよりや学年だより等の通信に英語科の授業の様子を紹介するなどして、保護者や地域への理解を図っている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の学校教育目標は、「心豊かに、しなやかに生きる子ども」である。教育目標を具現化していく具体的方策の一つとして、互いの違いを認め合えるためのコミュニケーション能力の育成が挙げられる。そこで、英語科を広い意味でのコミュニケーション能力を育成するため教育の一環として位置付けている。英語という、日本語とは異なる英語を媒介として、思考力、判断力、表現力、対人関係力などを伸ばし、生きる力となる自立心を高めていきたいと考えている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校は山や田園に囲まれ自然豊かな地域である。また、校区には柏原宿があり、かつては宿場町として栄えていたという歴史深い地域でもある。半面、人口減少が進んでおり、それに伴い、全校児童も減少の傾向をたどっている。インターネット状で外国の文化に触れることはできても、体験を通しての異文化交流としてなかなか成立しがたい。また、ネイティブな英語の発音や表現を学ぶことは、これからの国際社会を生き抜くための大きな力となる。このようなことから、英語科のもつ意義は大きいものとする。義務教育の目標でもある、「外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」にもつなげていければと考える。

4. 課題の改善のための取組の方向性

英語科の授業において、ALTと担任との英語でのやり取りを真似たり、児童が個々の発表内容で英語を使ってプレゼンテーションしたりするなどの課題にはずいぶん慣れがみられるようになってきた。しかし、定型をアレンジすることはできても、とっさの場での対応となるとまだまだ難しさがみられる。6年生は修学旅行先で、外国人観光客とコミュニケーションをとる経験をした。初めはなかなか積極的に行けなかったが、時間がたつごとに少し自信がもてたようであった。このように、まだまだ多くの経験を積み、自信につなげていく取り組みを進めていく。また本校は、文字の読み書きに抵抗を感じている児童が多く、「英語で書くこと」にも苦手意識がみられる。したがって、発達段階に応じて、低学年はアルファベットに慣れ親しむ、中学年は大文字と小文字の違いを認識すること、高学年は既習表現を書き写すことなどを具体的施策として習得を目指していく。